

「結核」を

正しく知って早期発見！

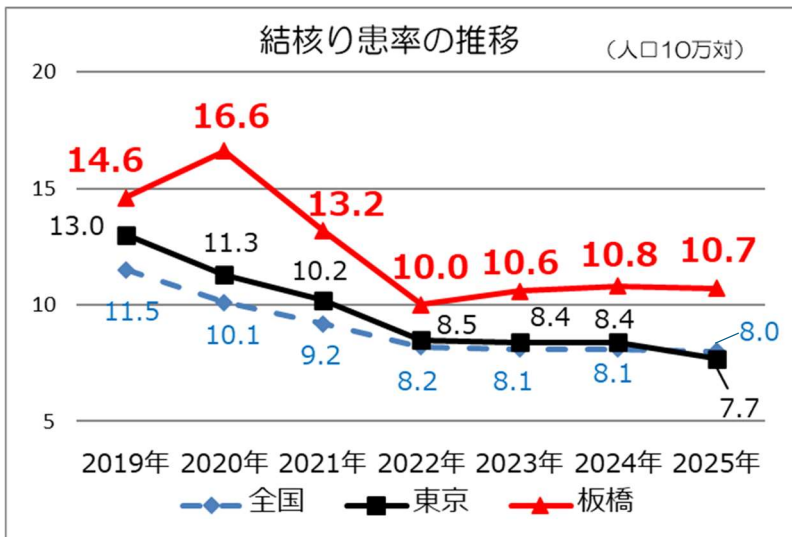


令和8年10月

＜結核とは＞

結核は、「結核菌」が引き起こす病気です。肺結核患者の咳やくしゃみの「しぶき」とともに菌が飛び散り、空気中に漂った菌が肺の奥深くに入り込むことで感染します（空気感染）。

多くの場合、感染しても実際に発病するのは10人中1～2人と言われています。感染後、加齢や病気などで免疫力が落ちると、数十年後に発病する方もいます。



2025年の板橋区

結核り患率 10.7

(人口10万対)

全国および東京都と比較すると
高い状況が続いています。

2021年以降、全国の結核り患率（人口10万対）が10.0以下となり、日本はようやく結核「低まん延国」（り患率10以下）となりました。

しかし、欧米先進国と比較すると未だに高い状況にあり、現在も日本において主要な感染症の1つとなっています。



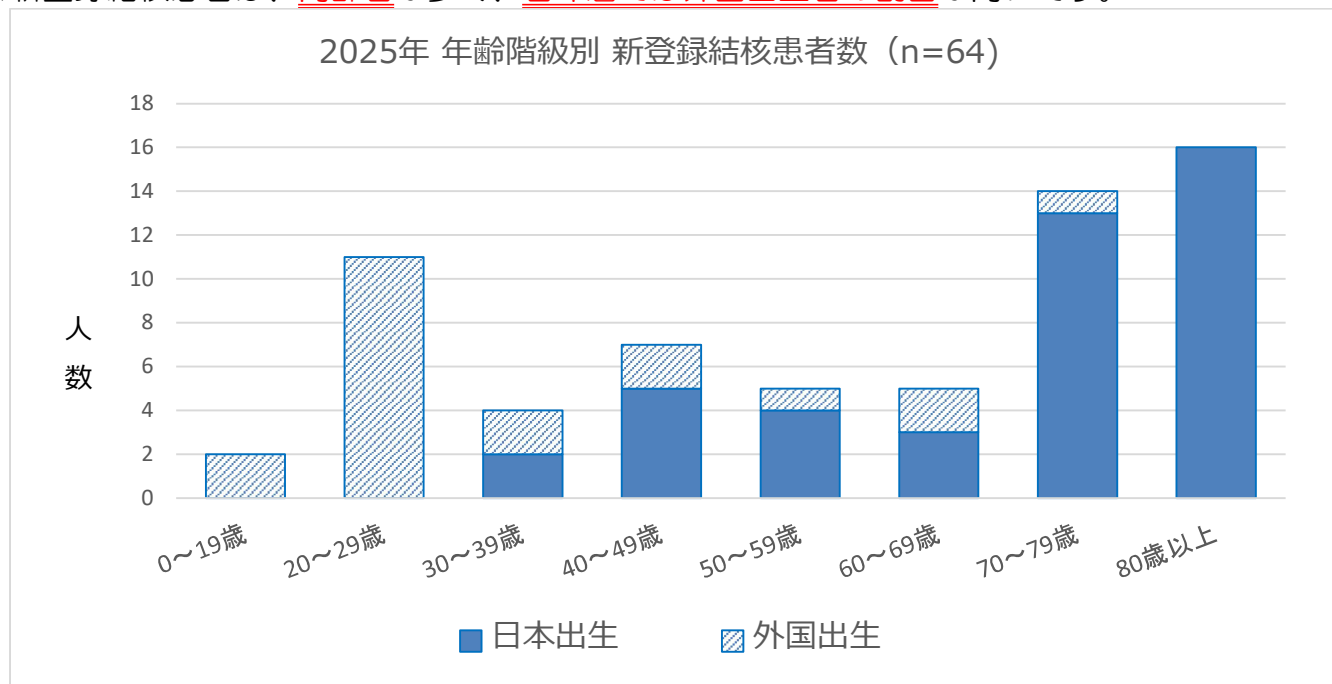
＜板橋区の新登録結核患者発生状況＞

※ 各年1月～12月の状況（人）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
新登録結核患者	97	77	58	62	64	64
(再掲) かくたんとまつ 喀痰塗抹陽性者 (感染性が高く入院が必要な方)	35	34	27	17	20	24
(別掲)潜在性結核感染症 (結核菌に感染しているが、 発病はしていない人)	44	32	25	36	37	30

2017年以降、新登録結核患者数は年間100人を下回るようになりました。しかし、2025年の新登録結核患者のうち、37.5%は喀痰塗抹陽性患者（感染性が高く入院加療が必要な方）です。

★新登録結核患者は、高齢者が多く、若年層では外国出生者の割合が高いです。



結核は、
「過去の感染症」ではありません！

<結核の症状>

初期症状は、咳・痰・微熱・体のだるさなど、風邪症状と似ています。特に、高齢者は症状が乏しく、食欲がない、体重が減るなどの症状から結核の診断につながることがあります。

<早期に発見しましょう>

結核を早期発見するために、毎年健康診断を受けましょう。特に 65 歳以上の方は、年 1 回の 胸部X線検査が義務づけられています。胸部X線検査で異常所見を指摘された場合は、自覚症状が無くても精密検査を受けましょう。

また、咳・痰が2週間以上続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

抵抗力の弱い乳児には、BCG接種が結核の重症化予防に有効です。
区から予診票が届いたら早めに接種を済ませましょう。



<区民結核健康診断>

保健所では区や職場で胸部 X 線検査を受ける機会がない方に、区民結核健康診断を実施しています。詳細は区ホームページをご覧ください。



シールぼうや

複十字シール運動のイメージキャラクター
結核をなくすために闘っています

＜問い合わせ＞

板橋区保健所 予防対策課感染症対策係
03-3579-2321